

平成30年度青少年意見募集事業
第2回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

1. 実施の趣旨

(1) 本事業の趣旨・目的

ユース・ラウンド・テーブルは、ユース特命報告員が特定のテーマの関係府省の担当者と対面して直接意見を交わすイベントであり、内閣府が従来から行っている「青少年意見募集事業」の関連事業として以下の目的・趣旨に基づき実施している。

- 子供や若者の考えを直接把握し、子供・若者育成支援施策の企画・立案に活用する。
- 子供・若者から聴取した意見を関係府省へフィードバックすることで、子供や若者の社会参画意識の向上に寄与する。
- 子供・若者政策を担当する職員が直に子供・若者と接する機会を設ける。

(2) 今回実施の背景

本格的な人口減少社会を迎える中、我が国が持続的な成長を続け、また、社会の様々な問題を解決していくためには、科学技術のイノベーションが必要である。さらに、生産性を向上させ、持続可能な社会を実現するためには、多様な視点や発想を確保することが不可欠であり、AI、IoTなど、技術革新が急速に進む中においては、より一層女性研究者・技術者の活躍が期待される。

しかしながら、日本における女性研究者の割合は増加傾向にあるものの、諸外国に比べてまだまだ低い水準に留まっている。さらなる技術発展のためには、研究者の裾野を拡大していく必要があり、そのために理学部や工学部等で学ぶ女子学生、さらには、理工系分野への進路を選択する女子生徒を増やしていくことは重要な課題である。

こうしたことから、内閣府では、女子生徒等の理工系分野への進路選択を支援するため、「理工チャレンジ(リコチャレ)」としてイベントやロールモデル等の情報提供といった取組を進めている。

2. 実施内容

(1) 実施時期・会場

日時：平成30年10月24日(水)18:00~20:00

会場：中央合同庁舎8号館5階共用会議室B(517・518)

(2) テーマ

「次代を担う女性の科学技術人材育成について」(提案元：内閣府男女共同参画局)

理工系分野を始めとする科学技術・学術分野において、次代を担う女性人材を確保するためには、理工系分野に対する興味関心や理解を向上させる取組を推進するとともに、人材育成を促進する必要がある。理工チャレンジの取組をより効果的で実効性のあるものとし、さらに今後の施策への示唆を得るため、「どこから、こういった情報発信が有効か」

第2回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

「小・中・高等学校段階における人材育成や科学技術に触れる機会提供」「進路選択における周囲の影響」等について対面式の意見交換会を行い、女子生徒等の理工系分野に対する興味関心や理解を促進するためにはどういった普及啓発や取組が必要かを検討する。

なお、理工系分野へ興味関心を抱いていない層や、進路が決まっていない若しくは決めかねている層に対するアプローチについても施策に反映させるため、その他の進路選択をするきっかけ等についても把握するとともに、家庭や学校等環境要因についても情報収集を行うことから、対象は進路意向や性別・年齢を問わず広く意見を聴く。

(3) 参加者

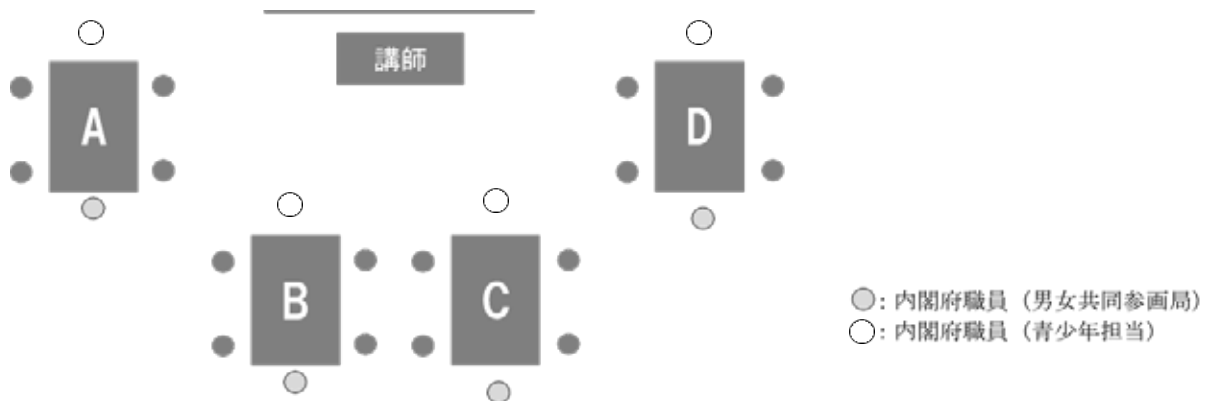
- ・ユース特命報告員 16名（中学生2名、高校生2名、大学生・専門学校生・短大・大学院生5名、社会人6名、専業主婦1名）
- ・内閣府職員（男女共同参画局）4名
- ・内閣府職員（青少年担当）4名
- ・講師1名（H2L, Inc., 創業者、早稲田大学 創造理工学研究科 准教授 玉城 絵美氏）

(4) 実施方法

<タイムスケジュール>

18:00-18:10	オリエンテーション （10分） ・事務説明（内閣府青少年担当から） ・冒頭挨拶（内閣府男女共同参画局から） ・テーマに関する現状と課題について説明（内閣府男女共同参画局から）
18:10-18:35	有識者による講演 （25分） 玉城 絵美氏による講演
18:35-19:25	意見交換 （50分） グループごとに意見交換
19:25-19:30	発表準備 （5分） グループ発表に向けた準備
19:30-19:42	発表（全体） （各班3分ずつ） グループごとに発表
19:42-19:45	講評 （3分） 講師及び内閣府男女共同参画局より講評
19:45-19:55	閉会 アンケート記入

< 配席図 >



3. 意見交換で出された主な意見及びとりまとめ結果

各グループで出された主な意見は以下のとおり。

Aグループ

グループ構成：6名(中学生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名、社会人2名、内閣府(男女共同参画局)職員1名、内閣府(青少年担当)職員1名)

【話し合ったテーマ】

大学の理工系学部の女性入学者を増やす。

【課題点】

- ・理工系に対するイメージがあまり良くない。
- ・理工系の人が身近にいないため、仕事内容や生活・経済状況等について知る機会がない。

【取組、広報等】

イメージアップを図る

- ・中高生へのイメージ戦略だけではなく、大人に対するイメージ戦略も重要。
- ・婚活支援をして、理工系分野で活躍する女性は結婚できるというイメージ付けをする。
- ・理工系で活躍する女性が「おしゃれ」や「かわいい」というイメージを若い女性がもてるような広報をする。

○メディア(テレビ、CM)やSNS等のツールを活用

- ・インフルエンサーとなるような有名人や、理工系分野で活躍する女性、YouTuber等に宣伝してもらおう。
- ・アニメの主人公を理工系の設定にする。
- ・理工系分野で活躍する女性に着目したドラマを放映する。

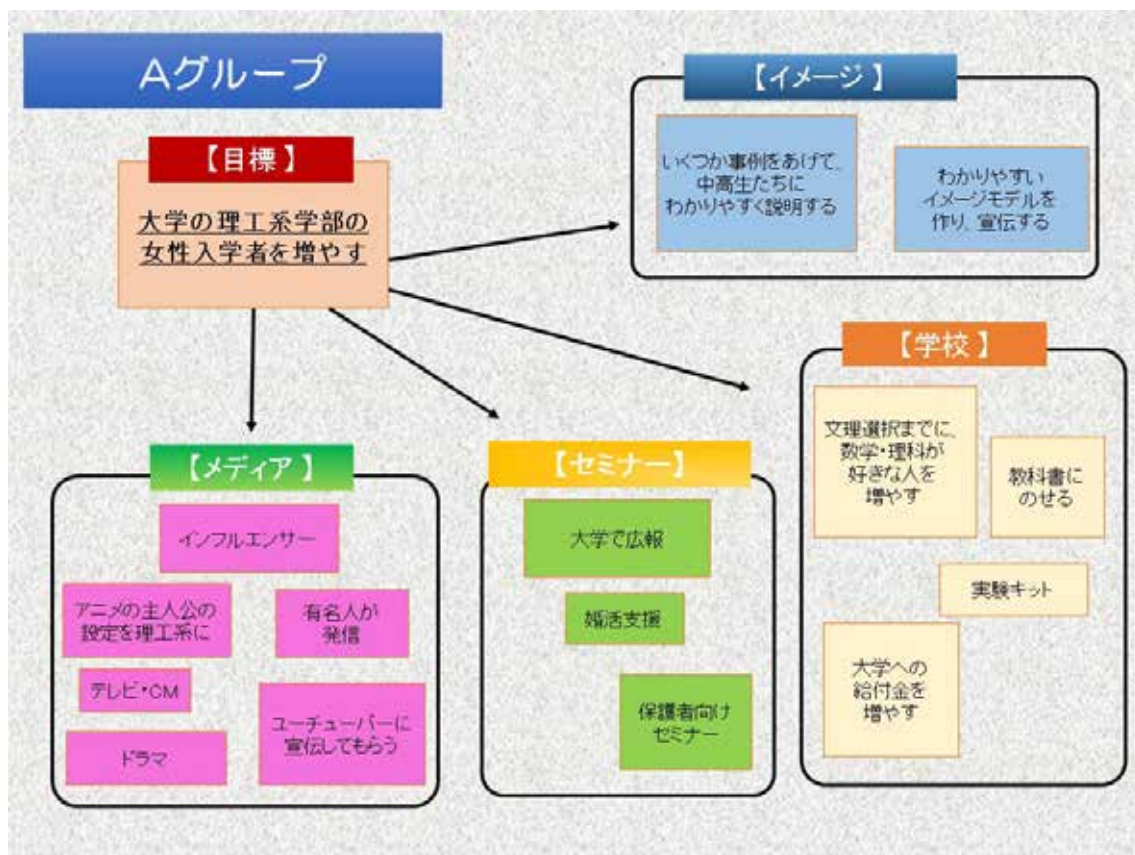
○セミナー等での広報・周知

第2回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について

- ・大学等でセミナーを実施する。
- ・親や周囲の大人に対する啓発セミナーを行う。

○学校での取組

- ・教科書に理工系分野で活躍する女性について掲載する。
- ・実験キットを用いて、理工系分野に触れる機会をつくる。
- ・大学への給付金を増やし、理工系の層を厚くする。
- ・文理選択までの間に、研究者の仕事を知る機会を設け、ロールモデルを示す。



Bグループ

グループ構成：6名（大学生・専門学校生・短大・大学院生2名、社会人1名、専業主婦1名、内閣府（男女共同参画局）職員1名、内閣府（青少年担当）職員1名）

【話し合ったテーマ】

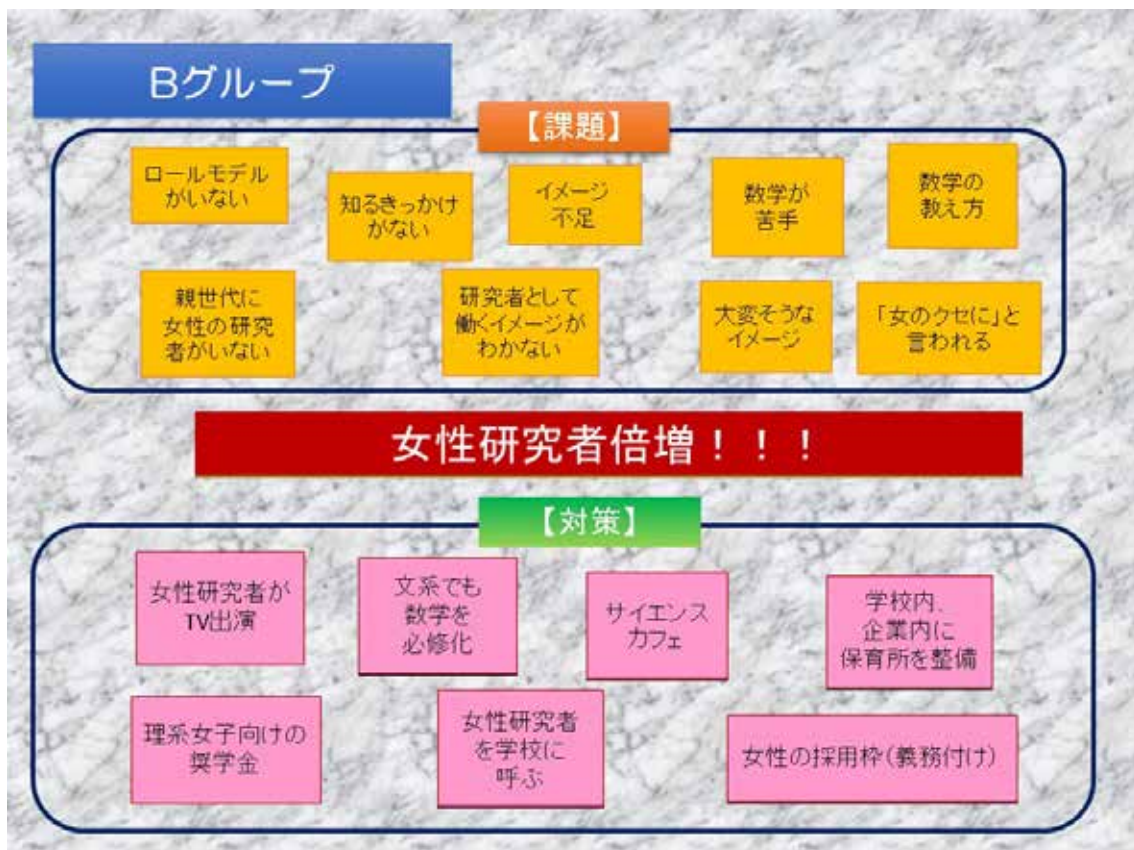
女性研究者倍増

【課題】

- ・女性研究者に対するイメージが不足しているため、研究者として働くことが想像できない。
- ・親世代、学校教員も含め、身近にロールモデルとなる人物がいない。
- ・夜遅くまで研究に拘束され、多忙なイメージがある。
- ・数学が苦手な女性が多く、数学の教え方自体にも課題がある。

【対策】

- ・女性研究者や、理工系で活躍する女性に対する奨学金の創設。
- ・エンジニアの給与面等をアピールする。
- ・女性研究者にTV出演してもらい、イメージアップを図る。
- ・サイエンスカフェ等、一般向けのイベントを開催し、PR活動を行う。
- ・女性研究者を学校に招き、研究者として働くイメージをもってもらう。
- ・学校内、企業内に保育所を整備し、研究と並行して育児ができる環境を整える。
- ・女性採用枠を企業に義務付け、女性研究者の増加を図る。
- ・文系でも数学を必修科目とし、選択肢の幅を広げる。



Cグループ

グループ構成：6名(高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名、社会人2名、内閣府(男女共同参画局)職員1名、内閣府(青少年担当)職員1名)

【課題】

- ・最先端技術をみると関心を抱かされるが、そういった機会自体がそもそも少ない。
- ・義務教育の段階では、理工系に対する興味・関心を持ちにくい。
- ・ライフステージを考える上で、継続して働くことに困難さを感じてしまう。
- ・高校までの段階で、理工系に対するイメージが縛られてしまい、進学・就職後に理系に転向するというモデルが想像できない。
- ・理工系にチャレンジしたときの失敗や挫折を恐れてしまう。
- ・「女性なのに」という固定観念や意識が未だに根強いと感じるため、敬遠してしまう。

【取組、広報等】

< タイミング・機会(関心を持つ/進路を検討する)を設ける >

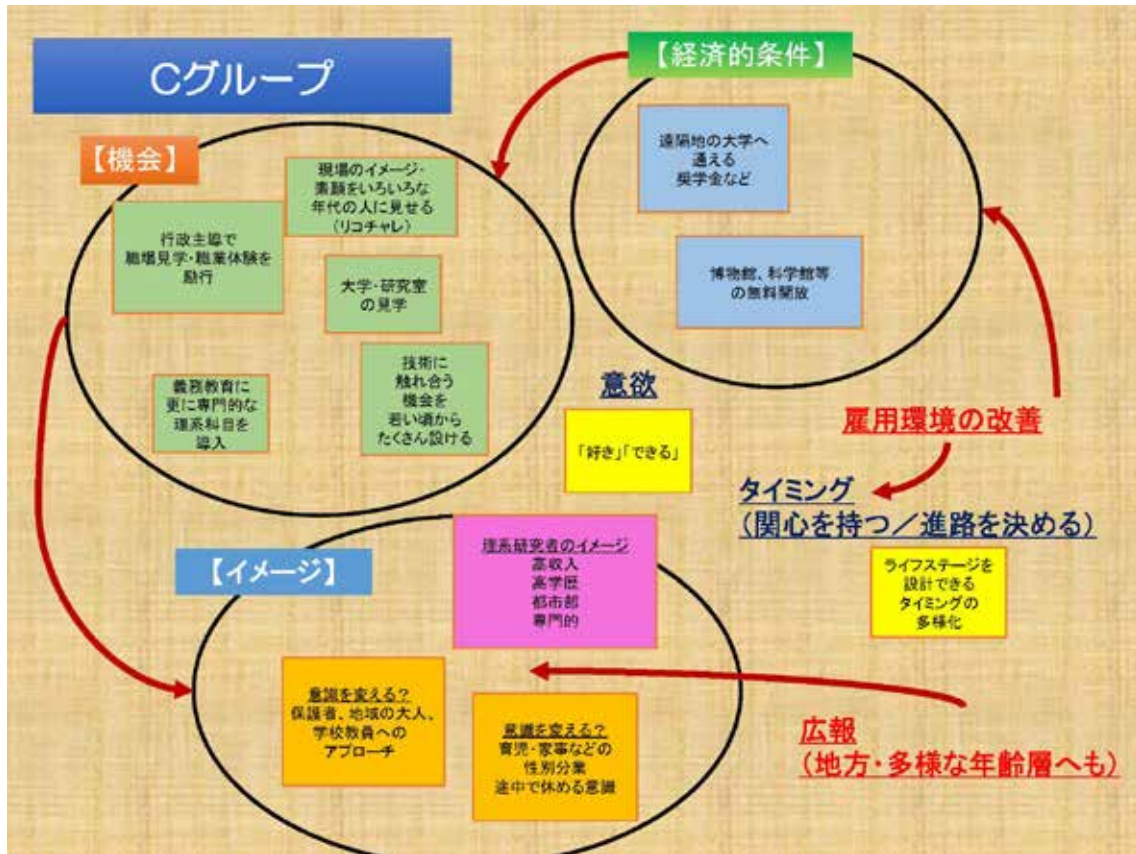
- ・博物館や科学館の無料開放を行う。
- ・大学や研究室等での様子を気軽に見学できるようにする。
- ・幼児・小学生向けに、技術と触れ合うイベントを実施する。
- ・理工系の職場見学や職業体験を行政主導で行い、イメージをもってもらう。
- ・義務教育段階で、さらに専門的な理工系科目を導入する。
- ・地方に向けた広報や、若者以外の多様な年齢層を対象とした啓発を行う。
- ・保護者や地域の大人、学校教員等へも理工系分野への進路に関する啓発を行う。

< 雇用や進学等における環境の整備 >

- ・遠隔地への大学へも通えるよう奨学金制度を充実させる。
- ・育児、家事等の性別分業の意識を変える。
- ・途中で休める意識が持てる環境づくりに取り組む。

【その他意見】

- ・できること、好きなこと、やれること等、意欲と世間の需要の一致が必要。
- ・次代の子供・若者が挑戦できる環境づくりが重要。
- ・ライフステージを設計できるタイミングの多様化を目指す。



Dグループ

グループ構成：6名（中学生1名、高校生1名、大学生・専門学校生・短大・大学院生1名、社会人1名、内閣府（男女共同参画局）職員1名、内閣府（青少年担当）職員1名）

【課題】

<メリット>

- ・取得できる資格が多く、理工系は就職に強いイメージがある。
- ・理系は賢いというイメージがある。
- ・理工系で活躍する女性や女性研究者は希少価値が高い。

<デメリット>

- ・文系と比較して、理工系は大学の学費が高い。
- ・研究室での拘束時間が長いイメージがある。
- ・子育てで研究が分断されてしまう。
- ・理数系は男子が得意なイメージが先行している。
- ・現時点で理工系で活躍する女性が少ないと感じる。
- ・理系はハードルが高いように感じてしまうため、消去法で文系を選択してしまう。

【広報・取組】

- ・リコチャレとは無関係のシンポジウム等とセットで講演を行い、そもそも興味がない層にもアプローチを行う。
- ・数学のカードゲーム等の馴染みやすいものを活用し、SNSで広報することで苦手イメージの払拭を図る。
- ・文系も理系科目を必須とさせることで、理系転向のハードルを下げる。（文系の入試科目でも数学を必須とする等）
- ・アニメや漫画等のキャラクターをロールモデルとして活用する。
- ・理数系を楽しめるイベントを開催し、SNS等で周知する。
- ・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に着目し、連携して人材開発を行う。

